

平成23年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	研究情報基盤整備費 (情報を基盤とする化学物質安全性国際協力事業)		担当部局庁	国立医薬品食品衛生研究所		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成8年度		担当課室	総務部会計課		渡邊 裕一		
会計区分	一般会計		施策名	VI-3-4 国立試験研究機関の適正かつ効果的な運営を確保する				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	化学物質の安全管理に資するために、WHOの事業の1つである国際化学物質安全性計画(IPCS)事業に日本の担当機関として、国際化学物質安全性カード(ICSC)をはじめとするIPCS文書作成により国際協力を推進するとともに、欧米の有益な化学物質安全性評価情報を日本語に翻訳し、ホームページを通して広く国民に提供することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	行政担当者、企業担当者、研究者、一般市民に対し、化学物質の安全性に関する質の高い情報を提供する。 1) IPCSの化学物質安全性評価に関する英語文書原案の作成、ならびに、そのための情報の収集・調査及び解析・評価を行う。 2) IPCS文書の日本語版作成とホームページ(HP)での提供を行う。 3) 欧米の主要機関作成の化学物質評価文書の日本語版作成とHPでの提供を行う。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算						
		繰越し等						
		計	15	15	15	15	14	
	執行額	15	15	14				
	執行率(%)	100%	100%	93%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)	
	ホームページの化学物質関連サイト(ICSC等)への年間アクセス数	成果実績	アクセス数	約20万件	約20万件	約20万件	約20万件	
		達成度	%	100%	100%	100%		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	作成あるいは翻訳した化学物質安全性評価関連の文書数	活動実績 (当初見込み)	文書数	約100 (約500ページ)	約100 (約500ページ)	約100 (約500ページ)	—	
					(100)	(100)	(100)	
単位当たりコスト	—		算出根拠	評価書の作成や翻訳は専門的知識が要求され、その作業を進めるには多くの背景資料・情報を収集、調査、評価、解析する必要がある。そのため、単位あたりのコスト計算は困難である。				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0.3	0.3					
	委員等旅費	0.1	0.1					
	試験研究費	4	4					
	電子計算機等借料	10	10					
	計	15	14					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・本事業は、WHOの国際化学物質安全性計画(IPCS)事業の日本の担当機関として行っているものである。質の高い評価文書の作成(英文、国際協力による原案の作成)およびその的確な日本語版の作成は、化学物質の適正な取り扱いにつながり、事故の軽減など日本のみならず国際社会の公衆衛生に資するものである。これらの質の高い業務を少人数で効率的かつ継続的に実施している。</p> <p>・執行管理表により支出先及び使途等について管理を行い、経費の適切な執行に努めている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		<p>情報を基盤とする化学物質安全性国際協力事業について、恒常的に多額の不用が生じているわけではないものの、執行実態を精査のうえ効率化を図ること。</p>	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>事業実績を踏まえ、事業に必要な経費を精査し、翻訳料の見直しを行った。 (反映額:▲0.4百万円)</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

国立医薬品食品衛生研究所
14百万円



【一般競争入札】

A. シーティーシー・ラボラトリーシステムズ(株)
4百万円

安全性試験システム保守業務

事務費 10百万円

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.シーティーシー・ラボラトリーシステムズ(株)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
保守	安全性試験システム保守	4			
計		4	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	シーティーシー・ラボラトリーシステムズ(株)	安全性試験システム保守	4	1	100.0%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					